



## 2018 年全日本スーパーフォーミュラ選手権 (2018 SUPER FORMULA) 第 5 戦: ツインリンクもてぎ (栃木県茂木町) レース報告書

予選: 8 月 18 日 (土)

天候	曇り
観客動員数	16,500 人
成績	ナレイン・カーティケヤン 選手 (#64): 4 位 伊沢 拓也 選手 (#65): 12 位

決勝: 8 月 19 日 (日)

天候	曇り
観客動員数	20,500 人
成績	ナレイン・カーティケヤン 選手 (#64): 11 位 伊沢 拓也 選手 (#65): 14 位

### <予選レポート>

異常気象により酷暑に見舞われた今年の夏。後半戦に突入した SUPER FORMULA 第 5 戦はツインリンクもてぎで開催され、この大会も厳しいコンディションになることが予想されていました。

予選日の朝は 20°C 前後で涼しく感じられた気温も、徐々に日差しが強くなり、夏らしい天候になります。予選 Q1 は 14 時 30 分にスタート。2 台は Q1 が始まると揃ってコースイン、最初のアタックを終えて一旦ピットに戻ります。タイヤ交換を終え、残り時間が 7 分を切ったタイミングで再びタイムアタックに入ります。

ナレイン・カーティケヤン選手(64 号車)は 7 番手のタイム、伊沢拓也選手(65 号車)は 3 番手のタイムで Q2 進出を果たしました。続く Q2 では、ソフトタイヤを装着してタイムアタックを行い、カーティケヤン選手は 6 番手で Q2 を見事突破したものの、伊沢選手はコースインのタイミングが悪く 12 番手のタイムで予選を終えました。

今シーズン初の Q3 進出を果たしたカーティケヤン選手は、残り時間が 4 分となった頃にコースインしてソフトタイヤでアタック、コースレコードを更新する 1 分 31 秒 789 をマークし、4 番グリッドを獲得しました。

### <コメント>

中嶋 悟 総監督:

「カーティケヤンは今シーズン最高グリッドの 4 位で、よくやってくれたと思います。伊沢もコースインのタイミングの問題はあったものの、速さを見せているので、明日は 2 台とも上位でフィニッシュできるようしっかりと準備して、全力で頑張りたいと思います」

ナレイン・カーティケヤン 選手:

“Qualifying was quite good. The car was working well from Friday, and we’ve taken the set-up up a notch for Saturday. The car was handling well on both compounds, and ideally that’s where we need to take it in order to come in around P4 like we did today. It’s very close at the top, with only two tenths of a second separating us from pole-position. The entire TCS Nakajima Racing team put in a stellar performance, and naturally I’m happy with how I drove, so all-in-all it’s been a positive day.”

「予選の結果はととてもよかったですと思います。マシンも金曜日から絶好調でしたが、今日の予選に向けてさらにパワーアップさせてきました。ミディアム・ソフトのいずれのタイヤを装着してもハンドリングがよく、予選 4 位という好成績を残すためにはこのレベルのパフォーマンスが求められるという難しさも実感しました。トップにも肉薄しましたが、ポールポジションからは 0.2 秒差となりました。チームは素晴らしいパフォーマンスを示しましたし、私もそれに応えることができました。今日は総じてよい一日になりました」

伊沢 拓也 選手:

「フリー走行の流れから予選もいいポジションをとれると期待していたのですが、予選になってタイムが伸び悩み、残念ながら Q2 で敗退となってしまいました。ただ、マシンの状態はレースウィークに入ってから非常によいので、決勝レースではカーティケヤン選手とともに 2 台揃って多くのポイントを獲得したいと思います」

### <決勝レポート>

決勝日は薄曇りで過ごしやすい 1 日で、気温 25℃、路面温度 35℃のドライコンディションとなりました。定刻どおり 14 時 15 分に決勝レースがスタートを切ります。4 番グリッドからソフトタイヤを装着してスタートしたカーティケヤン選手はポジションをキープし、オープニングラップを終えます。4 周目で後続のマシンにオーバーテイクされたものの、その後はこのポジションをキープし、レースを続けていきます。16 周目でピットインを行い、ミディアムタイヤへの交換と給油を終えてコースに復帰した後は 13 番手争いを展開し、後続のオーバーテイクを抑えましたが、20 周目の終盤でパスを許すことに。コース上の随所でバトルが展開される中、粘り強く周回を続け、11 番手でチェッカーフラッグを受けました。

一方、12 番グリッドからミディアムタイヤを履いてスタートを切った伊沢選手は、オープニングラップでアクシデントに巻き込まれ、16 番手までポジションを落とします。

ピット戦略が分かれた関係もあり、徐々にポジションを上げ、半分の周回となる 26 周頃には 8 番手を走行します。その後、28 周目でピットインし、ソフトタイヤへの交換、給油を行ったのち、コースに復帰してプッシュを続けましたが、オープニングラップでのアクシデントが最後まで響き、14 番手でフィニッシュとなりました。

### <コメント>

中嶋 悟 総監督:

「予選までの流れが決勝では出せず、あとで思えば、ピットインのタイミングも少し早かったかなと、いろいろ思うことはありますが、残りのレースも 2 戦となったので、なんとか結果を残してシーズンを締めくくれるよう次戦に向けてチーム一丸となって準備していきます。今回もたくさんのご声援をありがとうございました」

ナレイン・カーティケヤン 選手:

“The race started really well, but we just couldn’t hold our position. After pitting in and switching to medium tires it became too slippery and the machine’s performance waned off. We fought a lot, but there so few chances after that. The team has worked hard to put us in a good position at qualifying. We need to take on the lessons from this time and build on them for next time. Thanks to all those who came out to support us.”

「抜群のスタートを切りましたが、順位を上げられませんでした。ピットインしてミディアムタイヤに変更したあとはグリップが効かず、マシンのパフォーマンスが落ちてしまいました。懸命に戦ったものの、チャンスに恵まれなかったと感じています。チームはよい結果を出すために一生懸命取り組んでいるので、今回を教訓に、次回のレースに向けて頑張っていきます。今回も暖かい応援をありがとうございました」

伊沢 拓也 選手:

「上位フィニッシュを狙っていたのですが、1周目の接触でチャンスを失ってしまいました。走行中のマシンのフィーリングはよかったのですが、それを結果につなげられなかったことが悔やまれますが、残りの2戦で巻き返したいと思います」

以上

※次戦は9月8日～9日に岡山国際サーキット(岡山県美作市)で行われます。